



特集

鬼追いを、追っ。



毎年1月7日、
末吉町深川にある熊野神社で、福を招き、災いを払う「鬼」が暴れまわります。
いにしえ
古から伝わる年初めの行事「奇習 鬼追い」取材してきました。



鬼追いを、追う。
準備
ごへい
御幣づくり

鬼追いの3日前、鬼が纏う「御幣」づくりが始まった。
白い紙を切って、破けないう丁寧に広げ、角のついた竹かごに一枚一枚、丁寧に紐で括り付けていく。一年に一度だけしかできないこの手仕事を、想いを込めて一つ一つ進めていく。



鬼追いを、追う。
準備
鬼の手づくり

2日前。御幣が完成したのち、「鬼の手」をつくり始める。
鬼が持つだけでなく、当日授与するものもあるため、150本が目標。
古くから行われてきた「藁を編み、整える」という作業を子どもたちも
楽しそうに、そして真剣に取り組んでいた。





2017年
1月7日(土)

鬼追いを、追う。
当日・昼



午前 6 : 40

▼ 鬼火焚き 点火

熊野神社 神主の祈祷のあと、たいまつから火を移す。朝露に少し濡れていたものの、火はどんどん広がっていった。



午前 6 : 30

▼ 稚児行列

真っ暗闇の中、たいまつを持った子どもたちと一緒に会場に向かう。ほら貝が低く鳴り響く中、大淀川の堤防まで列は進む。



午前 6 : 15

▼ 鬼火焚き 集合

まだ日の出前。
熊野神社で焚かれた火を鬼火焚きの会場まで運ぶため、子どもたちが集まり始める。



午前 10 : 10

▼ 鬼豆炒り できあがり

薄い黄色だった大豆が、すっかり茶色く。出来立てを味見させてもらくと、あまりの香ばしさにいくらでも食べてしまいそう。



午前 10 : 00

▼ 鬼豆炒り 真っ最中

釜なべに入った大豆を、竹ぼうきで払いながら炒る。あまり見ない光景に、写真におさめる人もたくさんいた。



午前 9 : 50

▼ 鬼豆炒り 準備

高さ 50 ㍍はある大きなバケツいっぱい的大豆。前もって水につけて柔らかくしている。これを炒って「鬼豆」にする。



午後 1 : 30

▼ 商店街パレード 人々

人を見つけると突進するかのように走り出す鬼たち。出会った人は少し怯えるものの、御幣を手に入れた後は笑顔に。



午後 1 : 25

▼ 商店街パレード 場所

末吉の商店街を鬼が走りまわる。いつもの商店街が、鬼がいるだけで非日常的な場所に見える。



午後 1 : 20

▼ 商店街パレード 開始

大きく「鬼追い」と書かれたトラックとハーレーたちの行列。近所の人たちが音を聞きつけ、顔をのぞかせる。



午前 7 : 10

▼ 鬼火焚き 持ち帰り

鬼火の風を浴びた笹にはご利益があるそう。中には笹だけでなく、竹を持ち帰る人も。加工して、箆や花立てにするとのこと。



午前 6 : 55

▼ 鬼火焚き 参加者

空が明るくなりはじめた。地域の人たちが多く集まって、火を囲んでいるの見える。アツアツのぜんざいも振る舞われた。



午前 6 : 50

▼ 鬼火焚き 音

竹の焼ける「パチパチ」という音が、後ろの森に反響して聞こえる。火を見て、この音を聞くだけで厄が払えたような気持ちに。



午後 1 : 00

▼ 商店街パレード 出発式

ついに、鬼が姿を見せる。鬼含め関係者そろって祈祷を受け、パレードへと向かう。



午前 10 : 30

▼ 境内 準備

鬼豆炒りと同時に、境内の準備も進んでいく。いつもの熊野神社から、少しずつ「祭り」の熊野神社になっていく。



午前 10 : 25

▼ 鬼豆炒り 袋包み

配るため、小さな半紙に少しの炒った豆を入れて包んでいく。子どもたちもお猪口を使って豆を入れ、いくつも上手に包む。

鬼追いを、追う。
当日
まだまだ本番は
夜!



次のページへ



午後 1 : 40

▼ 商店街パレード 鬼退治

兜をかぶり、剣をもって待っていた女の子。実際に鬼がくると、腰が引けながらも果敢に剣をふっていた。



午後 1 : 35

▼ 商店街パレード 鬼豆

鬼が通ったあとは、さきほどできたばかりの鬼豆がまかれていた。鬼豆は福豆。御幣と一緒に持ち帰る人の姿も。



鬼追いを、追う。
当日・夜



午後 7:00

▼ 鬼神太鼓の演奏

ライトアップされた竹林の中で、大迫力の太鼓演奏が。途中、雨が強くなり、最後の曲は社の中での演奏となった。



午後 6:40

▼ 末吉ひょっとこ踊り奉納

鬼福ゲームのあと、軽快なリズムに合わせひょっとこ踊りが始まった。その軽妙な動きに観客からは笑い声が上がる。



午後 5:00

▼ 鬼のもてなし

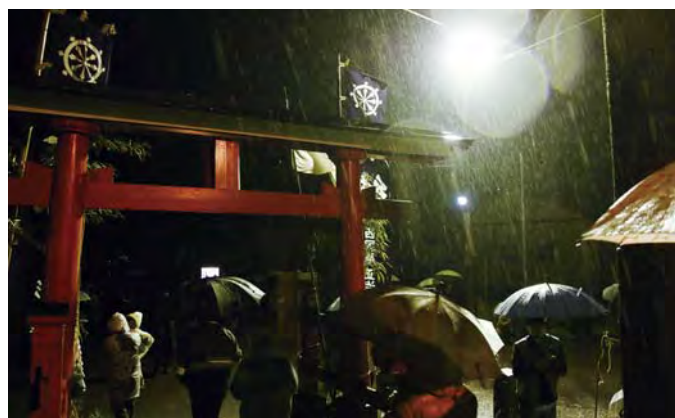
「おもてなし鬼女の会」お手製の「おに」しめ、「おに」ぎり、鬼棒（＝ガネ）が。外では「鬼のそばで」という意味を込めた鬼そばも。



午後 7:45

▼ 鬼追い 開始

いつもは暗闇の中で行われる鬼追い。今年は雨なこともあり、ライトが点いたまま行われた。



午後 7:40

▼ 雨の中での鬼追い

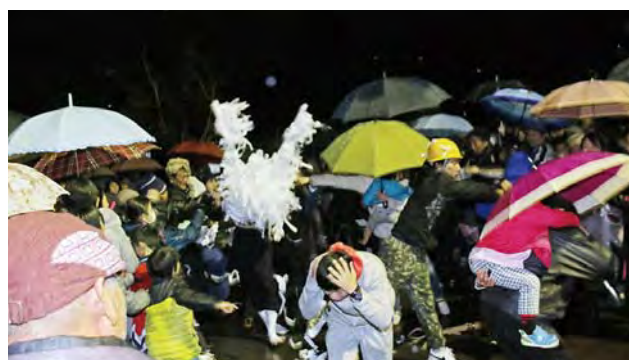
雨足が強くなってきたため、少し早めの開始。雨の中での鬼追いは100年遡っても記録がないほど、珍しい。



午後 7:55

▼ 鬼豆配り

雨の中にもかかわらず、多くの人が鬼追いの締めとして豆をもらいに。参加者はみんな満足そうな顔で神社を後にした。



午後 7:55

▼ 鬼追い

雨なんて関係なく、走りまわり暴れる鬼たち。御幣をとらなくても、鬼風にあたればご利益があるそう。



鬼追いを、追っ。 支える人たち

「鬼追い」とは

鬼追いは、古からこの地域で続く年頭の行事。この地域のなくてはならない風土のひとつとして、今までここ「鬼追いの郷」に残ってきました。

鬼追いは元々、光明寺というお寺の国家安泰や五穀豊穰などを祈願する「修正会」であり、昔はこの辺りにあった光明寺を含め、様々な地域で行われていたそうです。しかし、明治維新の頃に、廃仏毀釈で光明寺が廃寺になってしまいました。

その時、この地域では「鬼追いをなくしてはいけない」と考えた人たちがいて、光明寺の仁王像を破壊せずに地下に埋めることにしました。疫病が流行ったときに

それを掘り出して今の熊野神社に建て、また鬼追いを始め、今に続いています。

この鬼追いは、「乱声型」でかつ「鬼走型」といわれ、明治の頃からそれはずっと変わりません。鬼が暴れ回り、その風にあたるだけでもご利益があるといわれています。

今は、夜の「鬼追い」だけでなく「お祭り」として、たくさんの人に興味をもってもらえるようにと思っています。また来年、またその先も「鬼追い」に参加してもらいたいですね。



鬼追いに携わって37年

鬼追い保存会会長
迫 杉雄さん

鬼追い実況者

吉永 辰美さん

鬼追いに携わって39年



今年の「鬼追い」

今年は夜から雨が降ったので、鬼追いの開始時間が早まりました。青少年館にいたので、雨にはあまり気づかず「早まる」と聞いて、慌てて神社に向かいました。雨の中での鬼追いは、過去の記録を百年遡っても出てこなかったのが、当日実況でも話しましたね。

いつも神社の高台から、様

子を見ながら「うったくれ〜！」とかその時々で、盛り上がるよう実況しているの、何を言ったかはあまり覚えてないです。声を出し過ぎて、その後、数日は声が出ないほどの大きな声を出しているのは確かですが（笑）。

今年は、自分もやりたいという子どもたちがきて、一時代わりました。こんなのは今までで初めてだったんですが横で、何を言え！とかアドバイスをしましたよ。

いつから自分が実況を始めたのかはもう覚えていないんですが、鬼が走り去った後、お客さんたちを楽しませない！と始めたんだと思います。それは今も変わリません。鹿兒島弁の実況を楽しみにしてくれてる方もいるので、これからもできる限りはずっと続けていきたいと思っています。